

あなたも **30秒** で情報通! 活用法 いろいろ **コミュニケーションパー**



注意報、警報、特別警報以外の 大雨に関する3つの危険情報

記録的短時間大雨情報

大雨警報が発表されているときに、数年に1回程度発生する激しい短時間の大雨を観測または解析したことを発表する情報。

現在の降雨がその地域にとってまれにしかない激しい状況であることを周知するために発表されます。

指定河川洪水予報

気象庁は河川を管理する国または都道府県と共同し、指定河川について、水位や流量を示した洪水の予報を行っています。

指定河川洪水予報には、

- ① 氾濫注意情報
 - ② 氾濫警戒情報
 - ③ 氾濫危険情報
 - ④ 氾濫発生情報
- の4つがあります

土砂災害警戒情報

大雨警報が発表されている状況で、土砂災害の危険が非常に高まったときに、対象となる区市町村を特定して、都道府県と気象庁が共同で発表します。

土砂災害の危険箇所・警戒避難区域・特別警戒区域は「土砂災害危険箇所マップ」などで確認できます。

● 4種類の指定河川洪水予報 ●

- ① 氾濫注意情報……河川の氾濫発生に注意を求める水位。この水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合発表されます。
- ② 氾濫警戒情報……氾濫に対する警戒が必要な水位。さらに水位の上昇が見込まれる場合や、一定時間後に氾濫危険水位に到達が予想される場合に発表されます。
- ③ 氾濫危険情報……氾濫の恐れがある水位で「いつ氾濫してもおかしくない」状態。付近の住民は、この水位に到達する前に避難完了しているべき危険な状態。
- ④ 氾濫発生情報……既に河川の氾濫が発生している状況。

あなたも **30秒** で情報通! 活用法
いろいろ コミュニケーションペーパー



避難情報について

1. 避難準備

高齢者等避難開始

避難勧告や避難指示（緊急）を発令することが予想される場合はどんなときかいつでも避難ができるように準備しましょう。

- ・避難に時間を要する人（ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等）とその支援者は避難を開始しましょう。
- ・その他の人は、避難の準備を整えましょう。

2. 避難勧告

災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合

- ・速やかに避難場所へ避難をしましょう。
- ・外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

3. 避難指示（緊急）

災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった場合。

- ・まだ避難していない人は、緊急に避難場所へ避難をしましょう。
- ・外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

●どこに避難したらいいの●

発生する災害種別に対して立退き避難が必要な場合には、災害に対応した指定緊急避難場所へ避難します。

ただし、既に周辺で災害が発生している場合など、立退き避難がかえって命に危険を及ぼしかねないと自ら判断する場合は、「**近隣の安全な場所**」への避難や少しでも命が助かる可能性の高い避難行動として、「**屋内安全確保**」を行います。

「**近隣の安全な場所**」とは：指定緊急避難場所ではないが、近隣のより安全な場所・建物等。

「**屋内安全確保**」とは：その時点に居る建物内において、より安全な部屋等。



適切な避難行動とは？

■適宜適切な避難を行うために、家族や地域で確認すること■

自然災害に対しては、自らの判断で避難行動をとることが原則です。

お住まいの市町村は、災害が発生する危険性が高まった場合に、起こりうる災害種別に対応した区域を示して避難勧告等を発令します。

自宅や学校・職場等にはそのような危険があるのか、お住まいの市町村が指定している避難場所はどこなのか等について、あらかじめ確認・認識しておき、いざという時の避難行動について考えておきましょう。

STEP 1

自宅や学校・職場には、どのような危険があるのか確認する。

■お住まいの市町村が作成しているハザードマップや地域防災計画を見て、河川が氾濫した場合には何m浸水してしまうのか、土砂災害が起こりやすい場所ではないか等、自宅や学校・職場等のよく立ち入る場所には、どのような危険があるのか確認しましょう。

■お住まいの市町村が指定している避難場所を確認し、そこまでの経路や移動手段について避難計画をしておきましょう。

STEP 2

お住まいの市町村から発令される避難情報について確認する。

■お住まいの市町村から発令される避難情報の入手方法(市町村のウェブサイト、防災無線等)について確認しましょう。

STEP 3

もしもの時に備えて考えておきましょう。

■例えば、以下のような状況も考えられることから、緊急的な対応について、事前に考えておきましょう。

例1：大雨等により、避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くのより安全と思われる建物(最上階が浸水しない建物、川沿いでない建物等)に移動しましょう。

例2：外出すら危険と思われる場合は、建物内のより安全と思われる部屋に移動しましょう。

あなたも30秒で情報通！活用法いろいろ コミュニケーションペーパー



もしものときに備える物は？

■災害に対するご家庭での備えこれだけは準備しておこう！■

■飲料・食料などの備蓄、十分ですか？■

電気やガス、水道などのライフラインが止まった場合に備えて、普段から飲料水や保存の効く食料などを備蓄しておきましょう。防災のために特別なものを用意するのではなく、できるだけ、普段の生活の中で利用されている食品等を備えるようにしましょう。

■飲料・食料などの備蓄の例■

- ・飲料水 3日分（1人1日3リットルが目安）
- ・非常食 3日分の食料として、ご飯（アルファ米など）、ビスケット、板チョコ、乾パンなど

■非常用持ち出しバッグの準備できていますか？■

自宅が被災したときは、安全な場所に避難し避難生活を送ることになります。非常時に持ち出すべきものを用意しておきましょう。

・非常用持ち出しバッグの内容の例

飲料水／食料品（カップめん、缶詰、ビスケット、チョコレートなど）／貴重品（預金通帳、印鑑、現金、健康保険証など）／救急用品（ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など）／ヘルメット／防災ずきん／マスク／軍手／懐中電灯／衣類／下着／毛布、タオル／携帯ラジオ、予備電池／携帯電話の充電器／使い捨てカイロ／ウェットティッシュ／洗面用具／携帯トイレ。

